

城下町南広場落成！

～周辺施設を含め

防災拠点エリアとして活用～



上：城下町南広場落成式（4月2日開催）

下：消防総合訓練での避難訓練（4月8日開催）

おおの 議会だより

No.193 平成28年4月25日

▼	平成28年度予算決まる（3月定例会の概要）	2・3ページ
▼	12議員が市政を問う（代表・一般質問）	4～10ページ
▼	議案の各議員表決	11・12ページ
▼	陳情、人事案件	12ページ
▲	常任委員会審査Q & A	13ページ
▲	特別委員会報告	14ページ

発行：大野市議会

〒912-8666 福井県大野市天神町1-1

Tel 0779-64-4830 Fax 0779-65-3021

<http://www.city.ono.fukui.jp/>

編集：議会だより編集委員会



3月定例市議会要概

第397回定例市議会を2月29日から3月18日までの19日間の会期で開催しました。
 今回の定例会では、平成28年度の各会計予算案、平成27年度各会計補正予算案、条例の制定・改正、人事案件などの全43議案のほか、陳情2件について審議しました。審議結果は、11・12ののとおりです。

副議長に宮澤氏

定例会初日に副議長の選挙を行い、宮澤氏を選出しました。また、各常任委員会委員の改選と前委員の辞職に伴う各特別委員会委員の補充を行いました。

なお中部縦貫自動車道等幹線道路整備促進特別委員会では、委員長に島口氏、副委員長に藤堂氏を、また人口減少・若者定住対策特別委員会では、委員長に永田氏、副委員長に高田氏を新たに選出しました。

監査委員に川端氏

3月9日には、監査委員として川端氏を選任することに同意しました。

副議長決まる



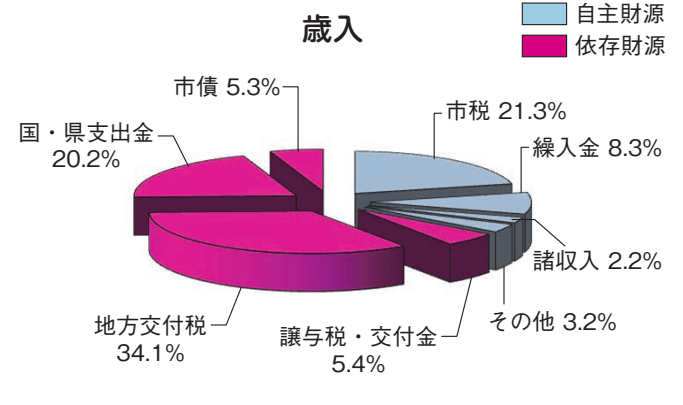
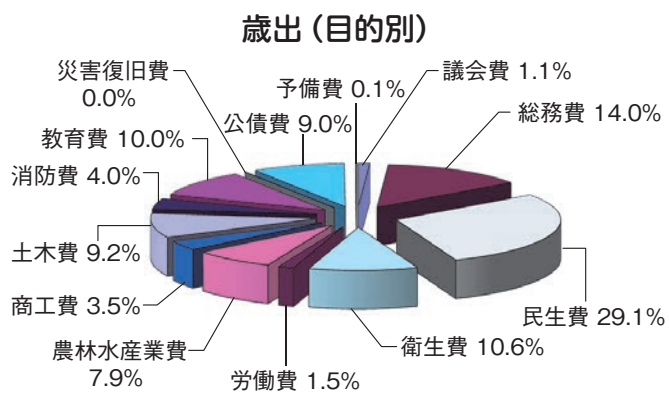
宮澤 秀樹氏
 (第52代副議長)

議会運営委員会及び各委員会の構成

議会運営委員会	常任委員会			特別委員会	
	総務文教	産経建設	民生環境	中部縦貫自動車道等幹線道路整備促進	人口減少・若者定住対策
◎ 島口 敏榮 ○ 廣田 憲徳 藤堂 勝義 兼井 大 畑中 章男 砂子 三郎 榮 正夫	◎ 畑中 章男 ○ 廣田 憲徳 松田 元栄 高岡 和行 島口 敏榮 砂子 三郎	◎ 松原 啓治 ○ 川端 義秀 永田 正幸 梅林 厚子 藤堂 勝義 榮 正夫	◎ 山崎 利昭 ○ 堀田 昭一 野村 勝人 高田 育昌 宮澤 秀樹 兼井 大	◎ 島口 敏榮 ○ 藤堂 勝義 廣田 憲徳 山崎 利昭 松田 元栄 梅林 厚子 畑中 章男 榮 正夫	◎ 永田 正幸 ○ 高田 育昌 堀田 昭一 野村 勝人 宮澤 秀樹 松原 啓治 兼井 大 砂子 三郎

平成28年度各会計予算決まる

人口減少対策の全庁体制での取り組みなど、重点的に計上



会計名	予算額	対前年度増減率, %
一般会計	177億3500万円	△0.4
特別会計	111億1720万円	△2.0
水道事業会計	3億1949万円	29.8
総計	291億7169万円	0.8

※特別会計は、国民健康保険事業や介護保険事業など7会計の合計額。

一般会計は総額177億3500万円
 第五次大野市総合計画の後期基本計画及び大野市総合戦略に基づく地方創生・人口減少対策として若者や子育て世代への応援、「市民力」と「地域力」を活用する地域づくり、学校・生涯教育の充実、地域医療の推進と健康づくり、中心市街地の活性化と農林業や観光の振興、湧水再生など環境保全対策に関する予算が計上され、また今後予定される重点道の駅(仮称)結の故郷」や文化会館などの整備、旧宇野・黒原邸の改修に係る必要な経費などが盛り込まれた予算編成となっています。

一般会計予算の主な事業など

人が元気



- 文化会館整備基本構想策定事業 500万円
文化会館の整備にかかる基本構想策定のための経費
- 越前大野城歴史空間整備事業 3816万円
「城下町おおの」の歴史、文化を感じ取ることできる城内へと改修する経費
- 給水タンク車整備事業 1500万円
加圧式給水タンク車と給水用ポリタンク1000個を購入する経費
- AED設置費補助 120万円
民間保育所に対し、AED設置にかかる経費の一部を補助
- 海洋センター維持改修事業 2250万円
B & G 海洋センターの外壁改修工事費
- 地域密着型サービス拠点等施設整備費補助金 1億6539万円
平成29年4月からサービスを開始予定の2施設の整備や備品購入費に対する補助

産業が元気



- 除雪車更新事業 4004万円
和泉地区のロータリー除雪車を更新する経費
- サン・コーポラス大野管理経費 5061万円
雇用促進住宅の管理にかかる経費。雇用促進住宅等を取得する経費を含む。
- 古民家ギャラリー整備事業 1606万円
遺贈を受けた旧宇野・黒原邸をギャラリーに改修するための設計プロポーザルや実施設計の経費
- 創業支援事業補助 124万円
創業希望者に対し、市、大野商工会議所、市内金融機関が連携してサポートするための経費など
- ファミリーリゾート休養施設リニューアル事業 5298万円
うらら館の再開に向けた工事等の経費

行政改革



- キャリングウォーター事業 1500万円
一般財団法人水への恩返し財団の活動運営経費とキャリングウォータープロジェクトへの寄付金を同財団へ補助する経費
- 結の故郷創生会議負担金 6000万円
人口減少対策の調査研究や事業を行うための結の故郷創生会議への負担金

自然が元気



- 小水力発電事業貸付金 2億円
このき谷発電所建設にあたり電源開発株式会社へ2億円を貸し付け
- 公営企業会計推進事業 347万円
公共下水道事業の公営企業会計適用に向けた固定資産調査、評価に要する経費
- 化石保全活用事業 1320万円
化石発掘体験会の実施や化石アドバイザー養成などに要する経費。(仮称)結の故郷化石発掘体験センターの実施設計業務委託を臨時的に予定

その他の 主な議案

▼平成27年度一般会計予算に4億4726万円を追加
国の補正予算に伴う「地方創生加速化交付金」に関連する増額補正、財政調整基金はじめ各基金への積立金、臨時福祉給付金等支給事業などの増額補正のほか、それぞれ通常の事務事業の額の確定等に伴う増減などにより、全体で4億4726万円が追加されました。前年度3月補正後と比較すると10%程度の減です。国の補正に伴い増額された主な内容は、地方創生・人口減少対策事業として8980万円、情報セキュリティ強化のためネットワーク及びシステムを構築する経費4723万円、市道の法面対策工事2725万円などです。

▼消防団員の職務報酬の引き上げ
消防団員の報酬を引き上げる条例改正がなされました。

▼大野市・和泉村新しいまちづくり計画の変更
合併後の新市の建設計画期間を5年間延長するとともに、今後計画している事業が追加されました。

▼指定管理者の指定
平成27年度に整備した特用林産物生産・加工施設の指定管理者として、株式会社昇竜が指定されました。指定期間は5年間です。

▼不動産の譲与
上山農村公園を廃止し、管理棟を地元自治会に譲与することとなりました。また、用途廃止された旧天狗岩ファミリーパークの建物のうち共同学習館・炊事棟・東屋各1棟及びケビン5棟を地元自治会へ譲与することとなりました。

▼林業振興センターの廃止
宝慶寺にある林業振興センターを廃止することとなりました。

健全財政の維持について、 どのように考え、予算編成したのか



選択と集中により 市民福祉の向上と地域経済活性化を目指す

創生おおの

かねい
兼井

まさひろ
大議員

代表質問

問 平成26年の市制施行60周年結の故郷発祥祭、結の故郷越前おおのによって市民に浸透した「結の心」を土台とし、次世代へ向けて市民一丸となって進むべき、より具体的に発展的継続性を持った大野市像・ビジョンをどのように考えているか。

答 平成26年に市民力、地域力を集結し開催した結の故郷発祥祭は、15の市民提案事業を含む58のイベントが実施され、多くの市民や観光客で賑わい、市民の結の心の醸成と地域の活性化に大いに寄与したものと考えています。今後も結の故郷づくり交付金事業や結の故郷越前おおの元氣創造事業、そして世代間結づくり事業など、さまざまな事業を通して結の心の醸成を図っていききたいと考えています。

また、家庭や地域における人と人、人と地域とのつながりを強め、ふるさとを愛する心を育むため、教育委員会が策定している「ふるさと教育推進計画」に沿って、結の故郷のふるさと教育を推進していくこととしている。家庭・地域が一体となつて「結の心」を育むことにより、結の故郷づくりが推進され、次世代へのメッセージになるものと考えている。

問 これまでの岡田市政の下、ハード事業で整備を進めてこられた資産と、今後整備や改修を予定している資産、文化会館、越前大野城、エキサイト広場、B & G海洋センター、自転車走行空間の整備、道の駅(仮称)結の故郷、古民家ギャラリー、うらら館、(仮称)結の故郷化石発掘センター等を

どのように戦略的に連携させ、今後のソフト事業、キャリアングウォータープロジェクト、すこやか・ゆめみらい応援券事業、結の故郷創生会議等で人口減少対策を加速させていくのか、県・近隣市町の資産も含め、広域的な視点からの戦略は。

答 本市では、人口減少対策を喫緊の最重要課題とし、人口減少に歯止めを掛けるため、保健医療福祉サービス拠点施設や新庁舎などの社会基盤の整備を進めるとともに、中部縦貫自動車道の整備促進などに努めてきた。また、中心市街地の活性化、産業・農林業の振興、観光施策の推進、子育てや結婚支援による福祉施策、そして教育理念に基づく大野人の育成を図るべく、家庭教育・地域教育や学校教育などの各種事業に取り組んできたところである。こうした取り組みを進めてきたことで、市外への転出抑制に一定の成果があったものと認識している。

また、平成28年度においては、地方創生に向けて重点道の駅(仮称)結の故郷や産業団地、古民家ギャラリー、(仮称)結の故郷化石発掘センターなどの整備のための準備を進めることとしている。事業連携については、一例を挙げると、中部縦貫自動車道の整備は、産業振興や観光振興に貢献するとともに生活維持のインフラとしての効果が

あり、産業団地への企業進出や他の施設へのアクセスなど、相乗効果が発揮され、さらに大野市から福井市やその近郊へ転出された若い世代の方々のUターンにもつながるものと思っている。

また、同様に各種イベントの開催や観光集客のための事業では、交流人口の増加に寄与することとなり、これについても相乗効果を発揮するものである。

県では、中部縦貫自動車道の県内全線開通や北陸新幹線の整備を見据え、周遊・滞在型観光推進事業による広域エリアの整備を進めると伺っており、これまで取り組んできた越前美濃街道広域観光交流推進協議会や福井坂井奥越広域観光圏推進協議会と連携を図ることで、ふれあい交流人口の増加にもつながっていききたい。



城下町南広場落成式(4月2日)でのキャリアングウォータープロジェクトの募金活動



新生おおの

しまぐち

としえ
島口 敏榮 議員

市政運営の基本姿勢と重点施策は

「市民の生命と財産を守る」を基本に 後期基本計画や総合戦略に掲げた施策を展開

問 平成28年度に重点的に取り組む施策は。

答 第五次大野市総合計画後期基本計画の初年度にあたり、総合戦略に掲げる地方創生施策にスピード感を持って取り組む。具体的には水への恩返し

プロジェクト（CWP）の推進、産業団地の整備、重点道の駅（仮称）結の故郷」の整備、若者の定住支援、結婚や子育て支援、越前おおの型農業の推進、教育環境の充実、生涯現役社会の実現などに取り組む。

問 水への恩返しCWPによる支援とは。

答 一般財団法人「水への恩返し財団」を通して、平成29年1月より3年間で、東ティモール民主共和国の学校に重力式給水システム6基を導入した。併せて、給水システム

管理体制や水源保護に関する啓発授業の支援も考えている。この取り組みは、日本ユニセフ協会が実施する支援の中で、全国の自治体では初となる「地域と使途を明確にした支援」である。

問 結の故郷はたらく若者定住奨励金等の実績と今後の見込み、その財源は。

答 結の故郷はたらく若者定住奨励金は2月末時点で380人に交付決定済み。平成28年度は350人と見込んでいます。結の故郷すこやか・ゆめみらい応援券事業では結婚で165件、出産で557件の申請があり順次交付している。平成28年度は結婚で340件、出産で670件と見込んでいます。財源は、国では新

型交付金が創設されるが、詳細が不確定のため一般

財源を手当てしている。
問 介護保険制度改正に伴う地域支援事業への移行でサービス内容の変更など高齢者への影響は。

答 平成29年4月の移行に向け、介護予防・日常生活支援総合事業ガイドラインに基づき工程表の作成や介護事業所等に対する説明会の開催など体制整備を進めている。移行後、サービス内容が多様化し、高齢者にとっては選択肢が増えることになる。また、介護予防の訪問介護などは利用の判定が簡素となり、迅速なサービス利用が可能となる。

問 産業団地整備の今後の日程は。

答 県の補助金を活用して、七坂・土打・富塚地区で産業団地の整備を予定している。平成28・29年度に、用地測量や設計、農村地域工業等導入促進法に基づく実施計画の改定などの手続きの後、造成工事や公共施設工事を

行い、31年度中の完成を目指していく。

問 重点道の駅「（仮称）結の故郷」はどのような魅力を持たせるのか。

答 重点道の駅は、魅力ある地域資源に関する情報提供や市内を回遊する「まるごと道の駅」の拠点施設としての役割と、大規模災害時において後方支援の役割を持った道の駅として、平成32年度の供用を目指している。計画では、従来の道の駅の3機能である「休憩・情報発信・地域連携」の拡充に合わせ「観光周遊拠点・防災・ふれあい交流」などの機能を追加した施設を考えている。具体的には、市内での回遊性を高めるための観光・ツアー案内所、県内外の有事の際の受援施設、広域支援部隊の集結拠点、救援物資の中継・配分スペースやヘリポートなどの導入を検討している。

問 六呂師高原活性化に向けての協議経過は。

答 県と連携して、関係者が参画する六呂師高原活性化推進協議会を立ち上げ、現在まで4回協議を重ねている。平成28年度では、県の支援を受け、休業中のうらら館再開に

向けた予算を計上している。今後も同協議会での協議などを継続し、六呂師高原の活性化を図っていききたい。

問 農業・農村を取り巻く環境が厳しくなる中、どのように越前おおの型農業の推進を図るのか。

答 環境調和型農業の継続と農産物のブランド化、県内外への積極的な販路拡大活動を推進して農業者の所得向上に努め、併せて農地中間管理事業を活用して効率的な農業経営を図るほか、小規模農家への支援を行うことで、多様な経営体の共生による農業振興につなげる。

特産作物については、機械導入に係る支援制度を充実させ、生産向上につなげる。また、農業者の経営意欲の維持向上と農地の多面的機能の発揮を図るとともに、持続可能な農村集落の実現を目指して取り組んでいく。

平成28年度は、越前おおの型食・農業・農村ビジョンの、これまでの施策を点検・評価し、ビジョンを改訂したい。

代表質問

今後の流域水環境に対する 市の取り組みとは

地下水・森林の維持・保全に努める



新生おおの

かわばた
川端

よしひで
義秀 議員

問 本市の今後の流域水環境に関する取り組みについては、どのように考えているか。

答 本市では、これまで地下水保全条例や森・水保全条例を制定し、これらを基本に地下水保全管理計画や越前おおの湧水文化再生計画などの各種計画を策定し、地下水及び森林の維持、保全に努めてきた。

今まで地下水の保全と湧水文化の再生を協議する場として設置していた大野市湧水文化再生推進連絡協議会を大野地域の流域全体における水循環に関する施策を協議するために発展的に改め、大野市水循環・湧水文化再生推進連絡協議会として設置したところである。今後の取り組みとしては、新たに農林業関係の機関や団体の代表者にも加わっていただき、平成



キャリング ウォーター プロジェクト
タウンミーティング(1月14日開催)

28年度中に流域水循環計画を策定し、大野市全域での森林、農地、都市などにおける健全な水循環の維持、回復に取り組んでいきたいと考えている。また、水への恩返しキャラクター ウォータープロジェクトの本格的な活動を開始し、水環境に恵まれた本市を全国から世界各地に広くアピールすることで、産業の創出や人材輩出、ひいては定住人口の増加につなげていきたい。

一般質問

学校教育審議会の議事録公開について、 最終答申が出されたのに公開できないのはなぜか

審議会の意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがあることや、本審議会の冒頭で非公開で行う申し合わせをしているため



創生おおの

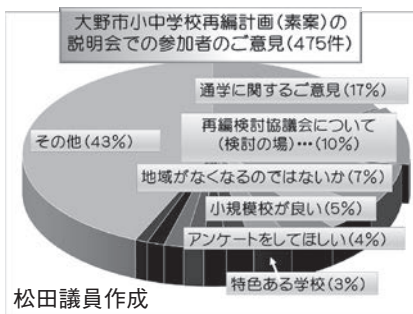
まつた
松田

もとえ
元栄 議員

問 再編計画素案説明会での市民からの意見・提案について、学校教育審議会でのような議論がなされたのか。また、今後の再編計画案にどのよう
答 市民の意見は学校教育審議会の委員に配布し、十分議論した。今後、答申の内容や学校の耐用年数を考慮し、総合教育会議で協議、調整し、計画案を策定していきたい。

問 公開請求に対し提出された素案説明会の意見録には475の意見や要望がある。最も多いのは通学に関する意見80件、再編を考える場としての再編検討委員会についての質問48件で、次に多いのは、地域がなくなってしまうが35件などグラフのとおりである。素案説明会でのこれに対する教育委員会の答弁は「再編協議会を立ち上げて検討していく」が最も多く60件、「地域の了解、同意がないと進められない」が28件あり、中には「1人でも反対したら、この話はなくてもいい」という回答もあり、参加者の戸惑いもあったが。

答 丁寧な学校再編をするために中間素案、案、計画と三段階のステップを踏んでこの再編を進めている。市民からの意見はしっかり受け止め、審議会に持ち帰り、議論が活発に展開できるようにしている。



大野の文化向上をどのように図るのか



文化芸術の振興は、 人々に生きがいと元気を与える

問 文化芸術の向上については、数学を解くように明快には表しにくいことだと感じる。まず向上心を持って、文化芸術に触れることが大切だと考えるが、この点も踏まえ、本市の文化向上をどのように図るのか。また、音楽についても同様にお聞きする。

答 文化芸術の振興は、人々に生きがいと元気を与え、心豊かな大野人を育成することにつながるものと考えており、第五次大野市総合計画後期基本計画や、現在策定中である大野市教育に関する大綱においても、豊かな心を育てる文化力の育成と文化芸術の振興を掲げている。

現在、多くの市民が優れた文化芸術を身近に触れ親しめるよう、市主催事業のほか、さまざまな事業を実施している。平成27年度における市

主催事業の例を挙げると、10月25日から11月3日までの10日間には、大野市文化協会が中心となり、第49回大野市総合文化祭が開催され、幼児から高齢者まで自由に参加できる文化芸術の祭典が実施されたところである。特に今回から文化会館でのステージイベントに大野

高校吹奏楽部と奥越明成高校吹奏楽部の音楽ステージ、また大野高校書道部による書道パフォーマンスを披露していただき、次世代の息吹を感じる初々しい文化祭となった。さらに本年1月11日には、越前おおのブランド大使を務める齊藤一郎氏の指揮による京都フィルハーモニー室内合奏団「ニューイヤークンサート」を開催し、582人の皆さまに本格的なクラシックに触れていただいたところである。

新生おおの

まつばら
松原

けいじ
啓治 議員

地域おこし協力隊等が担うことが可能な もしくは有効な業務はどのようなものか



若者ならではの斬新な発想や、熱意、行動力が 発揮される活動であれば、幅広い分野で導入が可能

問 地域おこし協力隊等の定着、定住のためには何が必要なのか。

答 本市で受け入れていけるのは緑のふるさと協力隊と地域おこし協力隊である。平成27年度、和泉地区で活動している緑のふるさと協力隊は、東京都出身の27歳の男性で、活動は多岐にわたり、語学力を生かした英会話教室の開催、大工仕事、各施設への訪問、出向宣伝への参加、また猟友会への加入など、幅広く地域活動に参加しており、地区住民は隊員の日々の活動や取り組みに刺激を受け、地域に元気が生まれたと大変喜んでいられる。なお、本年4月から引き続き和泉地区に定住し、特産物関係の仕事に従事することになっている。

を持ってもらう思いを醸成させることも大切。

問 グループ制導入により、消防本部、消防署については、職員力、組織力が向上し、市民の安全・安心な生活にとって期待も大きいですが、実際、どのような効果があったのか。

答 消防は災害対応を主な業務としており、従前より一つの組織として課を越えて活動を行っているが、さらにグループ制を導入したことにより、一層職員相互の情報の共有が図られ、隙間のない共同体制が構築できたと感じている。また、グループ制を取ったことにより、直接市民や消防団の方から戸惑いの声は聞かれないが、今後、そのような声があった場合には、十分検討し、業務に反映するとともに、地域の安全・安心の確保のため、職員力の向上と組織力の強化に努めていきたい。

立志会

ひろた
廣田

かずのり
憲徳 議員

一般質問

「立地適正化計画」ってどんな計画



創生おおの

たかだ
高田

やすまさ
育昌 議員

一般質問

コンパクトシティ化、20年後をめどに

問 「立地適正化計画」とは、どのような計画か。

答 平成26年に改正された都市再生特別措置法に基づき計画。①医療・福祉・商業施設などの生活サービス機能と住居等がまとまって立地する。②高齢者をはじめとする住民が、公共交通を利用して生活サービス機能にアクセスできる。この二つが両立した集約型まちづくりを目指すもの。

都市機能誘導区域と居住誘導区域を設定し、誘導策に基づき穏やかな誘導を行い、生活サービスを提供する施設にアクセスできる公共交通網を形成し、20年後を目標年度として、持続可能なまちづくりを目指す。

問 この計画の意義と役割は。

答 これまでのまちづくりは、都市への人口流入

と市街地の拡大コントロールという観点で行われてきたが、これからは人口減少という状況を前提としなければならない。

それに対応する都市政策の指標として、大きな意義があると考える。コンパクトシティに向け策定した計画を着実に推進していくことで、住民の生活サービスの維持や、空き家・空き地対策、中心市街地活性化、インフラの維持更新費用の縮減につながるかと考える。

役割としては、今後の人口減少に伴い、人口規模に合った都市の経営を継続していくことであり、社会情勢の変化や、その時々々の行政課題に対応して、随時、計画の内容を見直し、推進していくことが重要と考える。

小中学校再編には地元住民の合意が必要と文科省は求めており、時間を掛けて住民合意を得るべきでは

教育委員会として区長会や保護者等に時間を掛け説明してきている



日本共産党大野市議団

のむら
野村

まさひと
勝人 議員

問 地区説明会では、再編検討協議会で再編の是非を決めるように説明しているが、再編検討協議会と再編推進協議会の性格・役割の違いとは何か。

答 再編計画素案では、地区との協議の方法として(仮称)再編検討協議会を設けることとしていたが、学校教育審議会答申では、再編のための条件整備を協議する場との認識に立ち、再編推進協議会などの名称とすることも検討すべきとしている。

問 強引に再編を進めず、住民合意を得るため時間を掛けて話し合いをすべきでは。

答 今まで時間を掛け、区長会や保護者等に対し説明をしてきた。さまざまな意見を受け止めて、再編計画を進めてきている。

問 市内で行われる各イベントによって補助金や会場設営などの負担に差

がある。今後、負担の統一が必要ではないか。

答 主催者の状況判断や実情により違ってくるものであり、出店料や会場設営などは統一できるものではない。

問 子ども医療費窓口無料化について、どのような姿勢で取り組んでいるのか。また、展望は開けているのか。

答 県では、窓口無料化を実施している他県の実態調査、県下市町への意見聴取、重度障害者医療、母子父子家庭等医療との調整、今後の制度の在り方について検討を行っている。また、地方自治体が独自助成を実施した場合に国民健康保険の国庫負担金が減額されるペナルティーは廃止の方向で検討されており、今後、政府が5月に策定する予定のニッポン一億総活躍プランに一定の方向性が明記される見通しである。



成年後見人の支援体制は

社会福祉協議会で検討中、市も実施に向け支援を行う

創生おおの

梅林 うめばやし

厚子 あつこ 議員

問 認知症や障害などで、判断能力が不十分な方の成年後見人の支援体制は。

答 一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、認知症高齢者など支援が必要な人の増加に加え、介護者自身の高齢化も進んでいる。また、精神に障害のある人も増加傾向にあり、今後、成年後見制度を必要とされる人はますます増加すると思われる。社会福祉協議会で法人後見事業の実施に向けて検討中。市としても支援を行うとともに、一層の制度の普及啓発と活用促進に努めていく。

問 公営企業会計移行への取り組みは。

答 簡易水道、公共下水道事業では経営管理の向上などにつながることから、平成32年4月からの移行を目指し、固定資産の調査など準備を進めている。

問 公共下水道事業特別会計には一般会計からの国が認めている基準内繰入金と、それ以外の基準外繰入金がある。基準外繰入金とは、収支の調整、要するに赤字の補填と理解してよいか。

答 必要な経費として一般会計から繰り出しているという認識である。

問 健全化財政のためには、繰入金をはじめ、きちっとしたルールが必要ではないのか。

答 国の制度と非常に関連するものであり中長期的な財政計画を立てるのは難しい。

問 28年度予算に計上されている小・中学生のいる家庭への国旗の配布は、学校を通して行うのか。

答 教育委員会、各学校とよく協議をさせていた。まず国旗を掲げる運動推進協議会で検討し、具体的な手法を考えていきたい。

最高裁判決を今後の自治体運営にどう生かすか

最高裁の判決により固定資産税を賦課し、納税をいただいている



日本共産党大野市議員団

榮 さかえ

正夫 まさお 議員

問 この3月議会で、最高裁の判決からちようど1年になる。1年前の質問に対する「この裁判について市民に説明しない」との答弁については、議会モニター会議でも意見があったことである。また、住民監査請求の監査結果に対しては「契約自由の原則による当事者間の合意で3月8日を移転時期と認定したもので適正であった」との答弁であった。そのほか行政責任、判決後の対応の進捗状況、課税遅延に伴う損害などについて、現在の認識はどうか。この判決を今後の自治体運営にどう生かすのかという観点で聞きたい。

答 市民への説明は現在も予定していない。行政責任については、市の主張が認められなかったのは残念であるが、判決に基づき固定資産税の賦課を行い、納税もしていた。

問 この3月議会で、最大にしている。課税遅延に伴う損害は、判決の本文において触れられていない。監査請求に対し、不動産の移転時期を3月8日であるとした監査結果は適正であるとの認識に変更はない。

問 監査結果での「当事者間の合意」は、契約の変更を規定した契約規則第54条の適用を受けないのか。

答 重要事項は、契約規則に基づく変更契約がされるべきだが、相手方との確認事項の中で、引き渡し時期が延期されているとの認識が前提にあった。

問 地方自治体が有している課税権は、唯一の大切な権限ではないのか。

答 地方自治体にとって税は財源の根幹をなすもので、地方税法、賦課徴収条例に基づき厳格に課税するのが根本である。

キャリング ウォーター プロジェクト推進で 今後、必要なことは



水への恩返し、今後の募金活動は、
市民レベルでの協力をお願いしたい

誠和会・公明党

藤堂 勝義 議員

問 一般財団法人「水への恩返し財団」の募金活動の状況は。

答 募金や寄付金の依頼は、平成28年度から行いが、27年度においても6件の寄付があり、合計額は138万円となつていゝ。また、寄付の申し出もほかに3件ある。今後、寄付金や募金は、東ティモールへの水に関する支援をはじめ、本市の水に関する調査研究、水を利用した新しい商品開発、その他湧水再生のための各種事業などに使わせていただく。また、大野市民に理解を得て、市民レベルで募金等の協力をいただければ大変ありがたいと思う。

問 一般財団法人「水への恩返し財団」の募金活動の状況は。

答 募金や寄付金の依頼は、平成28年度から行いが、27年度においても6件の寄付があり、合計額は138万円となつていゝ。また、寄付の申し出もほかに3件ある。今後、寄付金や募金は、東ティモールへの水に関する支援をはじめ、本市の水に関する調査研究、水を利用した新しい商品開発、その他湧水再生のための各種事業などに使わせていただく。また、大野市民に理解を得て、市民レベルで募金等の協力をいただければ大変ありがたいと思う。

問 休日急患診療所の業務体制、受診状況等は。また本市の小児科の現状は。

答 診療科目は、土曜日が内科・外科、日曜日・休日が内科・外科・小児科。勤務体制は、土曜日

が医師2人、看護師2人等で7人体制、日曜日が医師3人、看護師4人等で10人体制勤務。患者の状況は、平成26年度実績で土曜日が572人、日曜日・休日が3654人、診療科目別の患者数は、内科1637人、外科1091人、小児科1497人となっている。市内の小児科は病院2カ所、診療所4カ所、平日の夜間、休日の診療は、市内のかかりつけ医の対応に加え、県立病院等4医療機関で夜間輪番体制を取り対応。

問 選挙権年齢の引き下げによる本市の状況は。

答 選挙権年齢を18歳以上に引き下げた改正公職選挙法の施行期日は本年6月19日で、参議院議員通常選挙より適用となる。本市の新有権者は約650人と推測され、全有権者数の2・2割を占める割合となる。

一般質問

補正予算と新年度予算案の 各地方創生交付金の事業の進め方は

予算を生かした事業の推進や
予算確保に向け積極的に取り組む



立志会

堀田 昭一 議員

問 補正予算における「地方創生加速化交付金」の事業の進め方は。

答 卒業式で「大野へかえろう」のオリジナル曲を合唱したところ、卒業生からは「保護者からのサプライズに感動し、必ず大野へ帰ってきたい」という声があり、平成28年度も続けていきたい。また、キャリングウォータープロジェクト(CWP)では、募金活動を推進し、集まった寄付を活用して、東ティモールに対し水に関する支援を行うほか、水に関する湧水再生のための各種事業も推進していく。このほか情報発信の充実や観光に関するプロモーションなどの調査経費も予定している。

問 平成28年度予算案における「新型交付金」の事業の進め方は。

答 本交付金は、タイプによって、3年から5年の事業期間が認められており、事業認定を受けることで、その財源も含めて安定的に事業を推進できるため、今後、事業認定の条件を十分検討し、交付金が充当できるよう、積極的に取り組む。

問 平成27年度のふるさと納税の総額は。

答 1月末時点では1209万3000円となる。

問 ふるさと納税の使い道の明確化は。

答 各種事業へ細分化する選択方法の実施は考えてないが、CWPへの活用を希望する寄付があったことから、本事業への寄付が選択できるような方法を検討していきたい。

問 現在、2万円以上の寄付が返礼品対象だが、低額の寄付者への返礼は。

答 平成28年度において、返礼品の対象となる寄付額の引き下げや設定金額の種類を増やすなどし、納税を推進したい。

平成28年3月第397回定例会 議案等の審議結果及び各議員表決

議案番号・議案名等		議員名（議席番号順）																			
		議決結果	堀田昭一	野村勝人	廣田憲徳	高田育昌	山崎利昭	松田元栄	永田正幸	梅林厚子	川端義秀	宮澤秀樹	藤堂勝義	松原啓治	高岡和行	島口敏榮	兼井大	畑中章男	砂子三郎	榮正夫	
市長提案	1	平成28年度大野市一般会計予算案	可決	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
	2	平成28年度大野市国民健康保険事業特別会計予算案	可決	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
	3	平成28年度大野市和泉診療所事業特別会計予算案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	4	平成28年度大野市後期高齢者医療特別会計予算案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	5	平成28年度大野市介護保険事業特別会計予算案	可決	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
	6	平成28年度大野市簡易水道事業特別会計予算案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	7	平成28年度大野市農業集落排水事業特別会計予算案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	8	平成28年度大野市下水道事業特別会計予算案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9	平成28年度大野市水道事業会計予算案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10	平成27年度大野市一般会計補正予算（第4号）案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	11	平成27年度大野市国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	12	平成27年度大野市和泉診療所事業特別会計補正予算（第1号）案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	13	平成27年度大野市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	14	平成27年度大野市介護保険事業特別会計補正予算（第4号）案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	15	平成27年度大野市農業集落排水事業特別会計補正予算（第3号）案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	16	平成27年度大野市下水道事業特別会計補正予算（第3号）案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	17	平成27年度大野市水道事業会計補正予算（第4号）案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	18	大野市情報公開・個人情報保護・行政不服審査会設置条例案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	19	大野市消費生活センターの組織、運営等に関する条例案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	20	大野市特用林産物生産・加工施設設置条例案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	21	大野市真名川河川敷サイクリングコース設置条例案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	22	大野市水道事業の剰余金の処分に関する条例案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	23	大野市行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	24	大野市人事行政の運営等の状況の公表に関する条例等の一部を改正する条例案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	25	大野市一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	26	大野市和泉体育施設設置条例の一部を改正する条例案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	27	大野市指定地域密着型サービスに関する基準を定める条例の一部を改正する条例案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	28	大野市指定地域密着型介護予防サービスに関する基準を定める条例の一部を改正する条例案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	29	大野市公共下水道条例の一部を改正する条例案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	30	大野市消防団員の定員、任免、服務、報酬等に関する条例の一部を改正する条例案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	31	大野市火災予防条例の一部を改正する条例案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

議案番号・議案名等		議員名（議席番号順）	議決結果	堀田	野村	廣田	高田	山崎	松田	永田	梅林	川端	宮澤	藤堂	松原	高岡	島口	兼井	畑中	砂子	榮
				昭一	勝人	憲徳	育昌	利昭	元栄	正幸	厚子	義秀	秀樹	勝義	啓治	和行	敏榮	大	章男	三郎	正夫
市長 提出 議案	32	大野市住民基本台帳カードの利用に関する条例を廃止する条例案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	33	大野市農村公園設置条例を廃止する条例案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	34	大野市林業振興センター設置条例を廃止する条例案	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	35	大野市・和泉村新しいまちづくり計画の変更について	可決	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
	36	大野市過疎地域自立促進計画について	可決	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
	37	指定管理者の指定について（大野市立農村集落多目的共同利用施設）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	38	指定管理者の指定について（大野市特用林産物生産・加工施設）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	39	不動産の譲与について（下山農村公園）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	40	不動産の譲与について（旧 天狗岩ファミリーパーク）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	41	福井県市町総合事務組合規約の変更について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
陳情	42	監査委員の選任について	同意	○	○	○	○	○	○	○	除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	43	人権擁護委員候補者の推薦について	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	1	健全な水循環の回復を求める意見書の国への提出を求める陳情書	不採択	否	賛	否	賛	否	賛	否	賛	否	否	否	否	○	否	賛	賛	否	賛
陳情	3	年金積立金の専ら被保険者の利益のための安全かつ確実な運用に関する意見書の採択を求める陳情書〔継続審査分〕	不採択	否	賛	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	○	否	否	否	否	賛

（議長（高岡和行氏）は採決に加わらないので「/」で表示。欠席は「欠」、除斥は「除」と表示）
 議案に賛成○、反対×。
 請願・陳情の願意に賛成「賛」、願意の趣旨又は一部に賛成「趣」、願意を否とする場合「否」

陳情

▼健全な水循環の回復を求める意見書の国への提出を求める陳情書

○陳情者 大野の水環境 ネットワーク 代表 石田俊夫

▼年金積立金の専ら被保険者の利益のための安全かつ確実な運用に関する意見書の採択を求める陳情書〔継続審査分〕

○陳情者 日本労働組合 総連合会福井県連合会 会長 山岸克司ほか1名

人事案件

▼人権擁護委員候補者の推薦

新たに桑盛由美子氏（下舌）を推薦することに同意しました。

○インターネット放映をご覧ください

本会議の様態をインターネットで録画配信しています。大野市のホームページからアクセスできますので、ぜひご覧ください。

ただし、閲覧の前には、免責事項をよくお読みいただきますようお願いいたします。特にスマートフォンによる視聴は、パケット通信料定額制の加入契約をしていない場合、通信事業者から高額な料金請求がくる場合がありますのでご注意ください。

○会議録を公開しています

本会議の会議録は、図書館や市役所で閲覧できるほか、大野市ホームページでも公開します。また、各委員会の会議録は、情報公開制度によって、公開を求めることができます。ただし、会議録の調整に一定期間を要します。

詳しくは、議会事務局へお問い合わせください。
 (0779-64-4830)

常任委員会審査



産経建設

化石発掘体験にかか

バス代助成の要件は

平成28年度当初予算

に計上された発掘体験への団体の誘客促進を目的とした借上げバス代に対する助成の要件は。

A 人数要件のほか、和泉地区内での回遊性を向上させるため、発掘体験に合わせ地区内の他施設を利用してもらうことなどを現在のところ想定しているが、今後、検討したい。

A 引き渡し前に現所有者である高齢・障害・求職者雇用支援機構が行うべき改修などを今一度確認するなど、最終協議を進めたい。

古民家ギャラリーの整備

遺贈を受けた旧宇野

黒原邸をギャラリーに改修するため、プロポーザル経費や実施設計にかか

る経費が当初予算に計上されているが、なぜ、ギャラリーとするのか。古民家で飲食をのんびりと楽しむカフェなどへの改修は選択肢になかったのか。

A 市内にある貴重な絵画を市外に流出させない

ためにも、絵画を常設展示できる拠点としたい。

また、カフェ等への改修は、経営的に成り立たないことなどにより民間事業者との協議が整わなかった。

Q 平成28年2月6日に実施した「越美北線で行く灯りと地酒の旅」の参加状況は。

A 福井市民対象の事業であるが、28人の参加があった。

Q イベントの時だけでなく、本市の魅力を活かして、いつでも越美北線を利用するよう検討はできないか。

A 本市の観光PRを他市町の広報誌に掲載することは難しい。まずは、越美北線のイベントの広報を通して本市の魅力を活かす、越美北線の観光利用促進策を検討したい。

生活保護受給者の

就労支援は

Q 自立に向けた改善策として、就労支援策を講じることも必要ではないか。

A 本市の受給者は65歳以上の高齢者が多く就労に結び付きにくい状況であるが、支援については既にハローワークなどと連携し、取り組んでいる。

Q 生活困窮者への支援

は。自立相談支援を引き続き実施したい。

消費者相談体制は

平成28年度の体制は。

A 相談体制の強化を図るため、消費生活相談員を1人増員し、2人体制とする。

相談内容は。

A 全国で起こっている「送り付け商法」など、悪質な手口に関する相談が増加している。

被害を未然に防ぐに

は、専門知識を有する消費生活相談員による消費者教育が重要ではないか。

A わく湧くお届け講座や、高校生・高齢者に対して消費者教育を実施している。

総務文教

文化会館整備基本構想

策定事業の内容は

Q 文化会館整備基本構想策定にかかる予算が計上されているが内容は。

A 策定委員会を設置するとともに、外部の有識者から専門的なアドバイ

スを受けるための委託料等を計上した。

基本構想策定にあ

っては、市民の利便性はもちろんのこと、本市の文化の拠点として、その機能を十分に発揮し得る施設となるよう、実際に演奏されるプロの意見を聞くことなどが必要では

ない。

A 策定委員会を立ち上げ、意見を十分に聞いていきたい。

災害時の

給水体制整備とは

Q 原子力防災における住民避難対策補助金を活用して災害時の給水体制の整備をするとは、何を購入するのか。

A 加圧式給水タンク車1台とポリタンク1000個を購入し、ポリタンクは防災倉庫、浄化センター、上水道のポンプ場等、関連施設に分散して保管する予定である。

ふるさと納税寄付金と

キャリアングウォーター

Q 本市のふるさと納税の取り組みは、成果を上げていく自治体に比べ見

劣りする。返礼品を充実する等工夫する考えはあるか。

A ふるさと納税ポータルサイトである「ふるさとチョイス」を通じて、閲覧から寄付の申し込みまで行っていたが、平成28年度からは発送までの全ての業務を行えるよう

に変更して、寄付者が返礼品の選択や申し込みが容易に行え、返礼品も早期に届くようにする。

ふるさと納税は「寄付金の所得税控除」の対

象になるが、キャリアングウォーターはどうか。

A 個人が市を通すことなく直接財団へ寄付した場合、一般財団法人のため税額控除の対象とならない。

寄付者には分かりづ

らいのでは。

A これから本格的に寄付金を受け付けるキャリアングウォーターの受付窓口とその周知方法等について、ふるさと納税の寄付金の獲得方法と併せて検討したい。

民生環境

越美北線の利用促進

Q 取得後に予期せぬ経費が発生しないか。

民生環境

越美北線の利用促進

特別委員会 報告

中部縦貫自動車道等 幹線道路整備促進

▼**中部縦貫自動車道**
大野油坂道路の平成34年度の全線供用開始に向け、積極的な要望活動に取り組んでいきたい。

▼国道158号

現在、予備設計の作成に向け、関係機関と協議を進めているとのこと。また、了解が得られた一部の地域では平成28年度当初から幅杭を設置していくとのことである。

▼国道157号

大野バイパス

懸案であった残る用地についても、土地収用による権利取得が完了したことから、平成28年度的全線開通に向け、順調に進捗している。

▼重点道の駅

〔仮称〕結の故郷

委員から「市街地やその他の観光地等からの旬な情報をタイムリーに発信し、直接、来訪を呼び掛けるような仕組みを考えられないか」、また「現在、夜間はトラックの往来が非常に多いことから、トラックでの来訪者の利便性向上にも配慮してはどうか」といった提案が出された。今回の特別委員会で出された委員からの意見も勘案し、全体の基本設計の詰め作業を進められたい。

人口減少・若者定住対策

大野市総合戦略の四つの柱のうち一番目の柱「安定した雇用を創出する」における三つの基本的方向に沿って、重要評価指標や、今後の重点事業等の具体的な取り組みについて説明を受けた。（委員からの主な意見）
・定住人口対策には働く場の確保は必要不可欠であり、誘致企業への支援策として議会の議決等を得る中で、大胆な優遇策

を企業に提示できる環境づくりが重要ではないか。

・特産作物の加工開発や販路拡大への支援については、本市は小規模農家が多く、六次産業化に取り組むにも加工、販売といった面においてノウハウがなく困難であり、J Aとの連携等が必要なのではないか。また、大手の農機具メーカーが食品の販売に力を入れており、本市もこうした企業にコンタクトを取って販路拡大を行うことも一つの方

法ではないか。

・結の故郷はたらく若者応援事業は、定職に就き市内で働いている若者と行政が確実にコンタクトを取ることができる貴重な機会であり、この世代に特に周知したいことなどを絞った情報提供をする等、有効に活用してはどうか。
・市内定住者が結婚等を機に県内転出する実態を捉えるため、簡単なアンケート等を実施してはどうか。

○市議会を傍聴しましょう

本会議は、どなたでも傍聴することができます。傍聴を希望される方は、議会事務局（3階）で受け付けを済ませてから、傍聴席にお入りください。

また、傍聴席で聞き取りにくい方のために、ヘッドフォンの貸し出しを行っていますので、議会事務局までお申し付けください。

なお、3月定例会の傍聴者数は、本会議5日間で70人でした。

次回、6月定例会の予定は次のとおりです。皆さまのお越しをお待ちしています。

日程（案）		審議等の内容
5月30日	月	議案上程、提案理由説明
6月6日	月	一般質問
7日	火	一般質問、請願・陳情上程
15日	水	各委員長報告、質疑・討論・採決

※予定のため変更になる場合があります。

第398回臨時市議会の概要

3月30日に臨時会を開催。副市長の選任について審議し、今 洋佑氏を選任することに、全会一致で同意しました。国の地方創生人材支援制度を活用し、副市長として国家公務員の派遣を受けるものです。

編集後記

福井県は、日本一豊かな県といわれる。とある報道記事を見たところ、貧困率の全国平均15・7割に対して、福井県は9・3割と全国で一番低い。福井県は、世帯主の平均月収が全国平均34万円に対して32万円と低いが、共働きの率や3世代同居率が高いことなどがプラスに働いているとされている。
しかし、それで安心して居るわけにはいかない。子どもは貧困と教育格差が全国的に課題となっており、本市においてもその状況を把握し、将来の本市を担う子どもたちの健やかな成長に資する取組みを積極的に進めていかねばならないと思う。
さて、本号から議会だより編集委員会のメンバーが変わり、新たな体制で引き続きより分かりやすく、皆さんに読んでいただける紙面づくりを目指していきたい。（座長 野村勝人）

議会だより編集委員会

委員 野村 勝人
堀田 昭一
梅林 厚子
川端 義秀
藤堂 勝義

※次回は、7月下旬の発行を予定しています。